災害への備え できていますか?

集中豪雨や地震など、自然災害に対する備えは万全ですか？
過去の災害で学んだのは「自助」「共助」の大切さ。
これからの梅雨を前に、日頃から
防災情報の入手や持出品などを準備しておき、
避難所や避難経路を再確認しましょう。

多久市防災計画に基づく避難場所です

※災害の状況で他の小中学校、その他の公共施設などを使用します。
※しみず園の地域交流センターは、災害の状況で要援護者を優先的に受け入れます。

「自助」と「共助」で 防災・減災を！

阪神淡路大震災の被災者で、助かった人のうち95%が自力での脱出と家族や友人、隣人の救助でした。これに比べ、消防や警察、自衛隊などの公的機関からの救助で助かった人は1.7%と低く、緊急性がある場合、公的機関は十分に対応できないことがあると分かりました。また、災害時は建物の倒壊や火災、ライフラインが断たれるなど、公的機関の活動が制限され、対応が遅れる可能性もあります。

災害が起きた時に重要なのは、自分のことは自分で守るという『自助』と自分たちの地域は自分たちで守るという『共助』。日頃から避難所の確認や非常持出品の準備・点検などを行い、自主防災組織などで地域と連携をとっておきましょう。そして自分を守るため、地域を守るための備えやその再確認を家族や地域で行い、防災・減災に取り組みましょう。

1 どこが避難場所か知っていますか?

市内で災害が発生する恐れがある場合や発生時に、防災行政無線や広報車などで『避難準備情報（自主避難）』、『避難勧告』、『避難指示（避難命令）』の呼びかけを行います。みなさんはどこが避難場所か知っていますか?市では公民館や小中学校など、市内16か所を避難場所に指定